

令和元年度 基本事業評価シート（平成30年度実績評価）

政策 02 健やかに暮らせるまち
 施策 03 障がい者（児）福祉の推進
 基本事業 04 療育指導・相談の充実
 主管課： 社会福祉課・こども療育教室
 関係課： 児童福祉課、保健センター、介護福祉課、指導室、社会福祉課

1 基本事業の目的

対象（誰、何を対象としているか） 療育が必要なこどもとその保護者	意図（どのような状態にしたいのか） 相談や健診等により障がいを早期に発見し、適切な療育指導を受けられるようにする。 相談や療育指導を受けることで、保護者の不安を軽減する。
-------------------------------------	---

2 基本事業の成果状況（意図の達成度を図る成果指標とその動向）

療育利用契約者数 (人) 社会福祉課					
基準値 (H26)	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	目標値 (R03)
87.00	101.00	114.00	115.00	115.00	90.00
向上指針	上がると良い	(状況) こども療育教室の利用契約者数は114人で、前年度と比較し13人増加しています。 (原因) こども療育教室で実施している児童発達支援事業は小学校就学前の児童が対象であり、小学校への入学により利用が終了することになります。これまで、利用終了となる児童の数と新規に利用開始する児童の数が同程度であったため、年間の利用契約者数が85人前後で推移していました。平成29年度に利用契約者が100人を超えてからは、2年続けて増加しています。			
対前年度	向上				
目標達成度	達成				
次年度課題	課題としない				

療育指導回数（年間） (回) 社会福祉課					
基準値 (H26)	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	目標値 (R03)
2,026.00	2,225.00	2,715.00	2,700.00	2,700.00	2,100.00
向上指針	上がると良い	(状況) こども療育教室での療育指導回数は年間2,715回で、前年度より490回増加しています。 (原因) 利用契約者数の増加に伴い、今後も指導回数は増加傾向で推移するものと考えられます。しかし、利用者の体調や家庭の都合等により欠席となることもあるため、指導回数については、ある程度増減することも考えられます。			
対前年度	向上				
目標達成度	達成				
次年度課題	課題としない				

療育相談件数（年間） (件) 社会福祉課					
基準値 (H26)	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	目標値 (R03)
574.00	912.00	852.00	850.00	850.00	600.00
向上指針	上がると良い	(状況) こども療育教室で受けた相談件数は年間852件で、前年度と比較し60件減少しています。 (原因) 相談は利用契約者以外の一般の方からも寄せられています。相談内容も、子どもの発達に関すること、幼稚園・保育所の就園、小学校の入学、家庭や幼稚園等での生活、医療に関すること等多岐に渡っています。今後も、現状と同程度の相談件数で推移するものと考えられます。			
対前年度	低下				
目標達成度	達成				
次年度課題	課題としない				

基準値 (H26)	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	目標値 (R03)
0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
向上指針					
対前年度					
目標達成度					
次年度課題					

